

第56回「ハートミーティング」意見交換の内容について 「環境職研修会」

★参加メンバーからの主な声

○ 環境職として正直な今の思いを直接、市長に伝えることができたのは、非常によかったと思います。その思いに対して、市長からアドバイスや前向きな意見をいただき、励みにもなりました。

○ 「環境」という専門のみにとらわれるのではなく、自分の専門を切り口に、様々な分野の知識を深めていきたいと思いました。

○ 京都市は、都市の発展と環境という、相反するものを両立させている旨のお話を頂き、世界の各都市と交流されている市長だからこそ見えることだと思いますし、「将来京都を発展させる環境政策」を提案し、実行していかなければならないと思いました。

○ 「売ってよし」「買ってよし」「世間よし」という「三方よし」という考え方に、「未来よし」を加えて「四方よし」にしてゆきたいというお話に感銘を受けました。

○ 市長と直接話しすることは、日頃の活動や仕事へ取組む姿勢などを振り返る契機となり、インパクトの強いことですので、今後も機会を頂けることがあれば、積極的に若手の参加を呼び掛けていきたいと思います。

★市長からのコメント

- 歴史と伝統があって、カラーが決まっているグループも多いが、環境職研修会は草創期であり、一から作っていただけることはおもしろい。ぜひ一人一人が、またグループが、パイオニアとなって欲しい。
- 環境という視点はあらゆる政策において重要である。行政の仕事は縦割りになりがちであるが、環境の視点で横串を刺して、政策を融合させる役割を担って欲しい。
- 市民の方々や役所内での連携を深めていって欲しい。
- 近代化しつつも、ゴミの排出を抑制し、自動車の分担率を下げ、環境を大事にする。こういうモデルを京都は今作ろうとしている。
- 経済発展や目に見える成果も大事だが、生活の仕方、まちの在り方、産業の在り方、学問の在り方などひとりひとりの生き方に迫っていくのが、環境モデル都市としての京都の挑戦である。
- 環境分野だけでなく、環境を切り口に視点がすごいな、深いな、と周りから信頼されるような存在となり、仕事全体を任せられるような環境職を目指して欲しい。